

お知らせ

ロシアのウクライナ侵攻も2月24日で4年目に。トランプ就任後、関税に関する大統領令に関心が向く中、ロシアとウクライナの停戦に向けた協議を米ロ間で進めようとしている。現在のところ当事者のゼレンスキー大統領は蚊帳の外。当然の如く警戒感をあらわにしている。NATOも同様



に警戒を強め、国連は総会決議案【ウクライナ領からのロ軍の「完全かつ無条件の即時撤退」や「国際的に認められたウクライナ領土の保全」を求め、「(ロ軍の) 武力による領土の獲得を合法と認めない】が採択される見込みで米ロ協議を牽制している。所帯が大きくなった NATO も国連も実力行使できない烏合の衆と化した今、何を採択しようと絵にかいた餅である。トランプもプーチンも我が道を行くタイプ。声は届くか・・・

ではどういった停戦協議になるか私なりに考えてみた。ロシアが占領した地域を新しい国(以下、「新国」という。)にするという案はないだろうか。占領地をそのままロシア領にすることは協議する上で米国は妥協できない。しかしながら、(ロシア傀儡の)新国を建国する方向であればプーチンの面目は立つ。表向きロシアが侵攻した目的は親ロ派の人権を擁護することにあつたからである。かつて米ソが朝鮮半島を二分し両国の緩衝地帯としたようにウクライナを分割する案は常套手段のようにも思える。米国としてもロシアのウクライナ侵攻は旧ソ連の内戦と思えばこれ以上ウクライナの支援をする必要もない。ゼレンスキーが蚊帳の外なのはそういうことではと思うところである。

1 訃報について

(12月) 松村 文雄 様(鑄銭司) 岡田 重三郎 様(阿知須)
(1月) 斎藤 徹 様(三和町) 八木 民夫 様(黒川)
(2月) 濱崎 裕兒 様(江良)
謹んでご冥福をお祈りいたします。

(裏面へ)

2 山口市建国記念の日奉祝大会について

去る2月11日(火・祝)、奉祝大会が滞りなく開催されました。

今年は全日本実業団ハーフマラソンとの競合もなく日の丸行進に続き記念式典が実施することが出来ました。昨年よりも多くの市民の参集を受け、実行委員会(隊友会山口支部)も胸をなでおろしたところです。恒例の山口駐屯地音楽部の演奏に感謝し、併せてご協力いただいた会員の皆様、お疲れさまでした。



3 栄典制度について

死亡叙勲は30日以内に閣議決定・裁可の手続を完了させるよう制限が課せられています。したがって部隊に速やかに(1週間以内)に通報し、手続きに着手する必要があります。ご逝去を知り得た会員及びご家族の速やかな一報をお待ちしております。

※ 訃報等の情報は速やかにご連絡ください。

※ 不在時は留守電に「氏名・用件等」を入れて下さると幸いです。

隊友会山口支部長 重弘 基宣

山口支部事務局長 中嶋 祥晃

「山口県隊友会」ホームページ QR コード

